



星空の暦

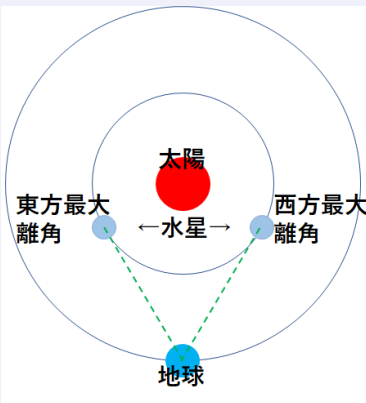


1月3日～4日頃 しぶんぎ座流星群の極大

三大流星群のひとつであるしぶんぎ座流星群が、3日の23時から翌4日の0時頃に極大となります。観察には4日の2時から5時頃が適していますが、この頃は月が明るいので、月を視界に入れないようにして観測をすると流星を見つけやすくなります。この流星群の名前になっているしぶんぎ座という星座をご存知ですか？右の星座図を探しても見つけることのできない星座です。しぶんぎ座は天体観測に使われた四分儀(しぶんぎ)をもとにした星座で、1922年に星座の数を88個に定めたときに選ばれずに外されてしまった星座です。しぶんぎ座はりゅう座、おおぐま座、うしかい座のあたりに位置し、しぶんぎ座流星群はこの近くに放射点があるためこのような名前が付いています。

1月24日頃 水星が東方最大離角

水星は地球よりも内側を公転している惑星のため、見かけの太陽からの位置が最も離れた「最大離角」の頃に見つけやすくなります。24日に水星が太陽の東側で最大離角となるので、21～28日頃が観測のチャンスです。このとき、水星は日の入り直後の西の低い空で見られます。西の空が開けている場所で、良く晴れた日での観測がおすすめです。日の入り直後は少し空が明るいので、双眼鏡を使うと観測しやすくなります。



太陽、水星、地球の位置関係→

今月の星座



おうし座

牡牛の右目にあたるアルデバランは、オレンジ色に輝く一等星です。この星の近くにはヒアデス星団、牡牛の背のあたりにはプレアデス星団と呼ばれる散開星団があり、肉眼でも見ることができます。他にも望遠鏡を使えば、かに星雲を確認できるなど、見所が多い星座です。

りゅうこつ座

全天で2番目に明るいカノープスをもつ星座です。カノープスは、中国では長寿星として縁起の良い星とされてきました。日本からこの星座の全体を見ることはできませんが、カノープスは千葉県でも地平線ギリギリに見ることができます。地平線近くで見られるため、それほど明るく見えませんが、南に開けた場所で探してみてください。

うさぎ座

オリオンの足元にある星座で、比較的明るく、形もわかりやすい星座です。兎の目の位置には赤い星があります。この星は明るさが変わる変光星で、明るさを増した頃には双眼鏡で見ることができます。

ワンポイント！ 冬の天の川

夏のイメージが強い天の川ですが、冬にも淡い天の川を見ることができます。北から冬の冬の大三角を縦に横切るように見えます。

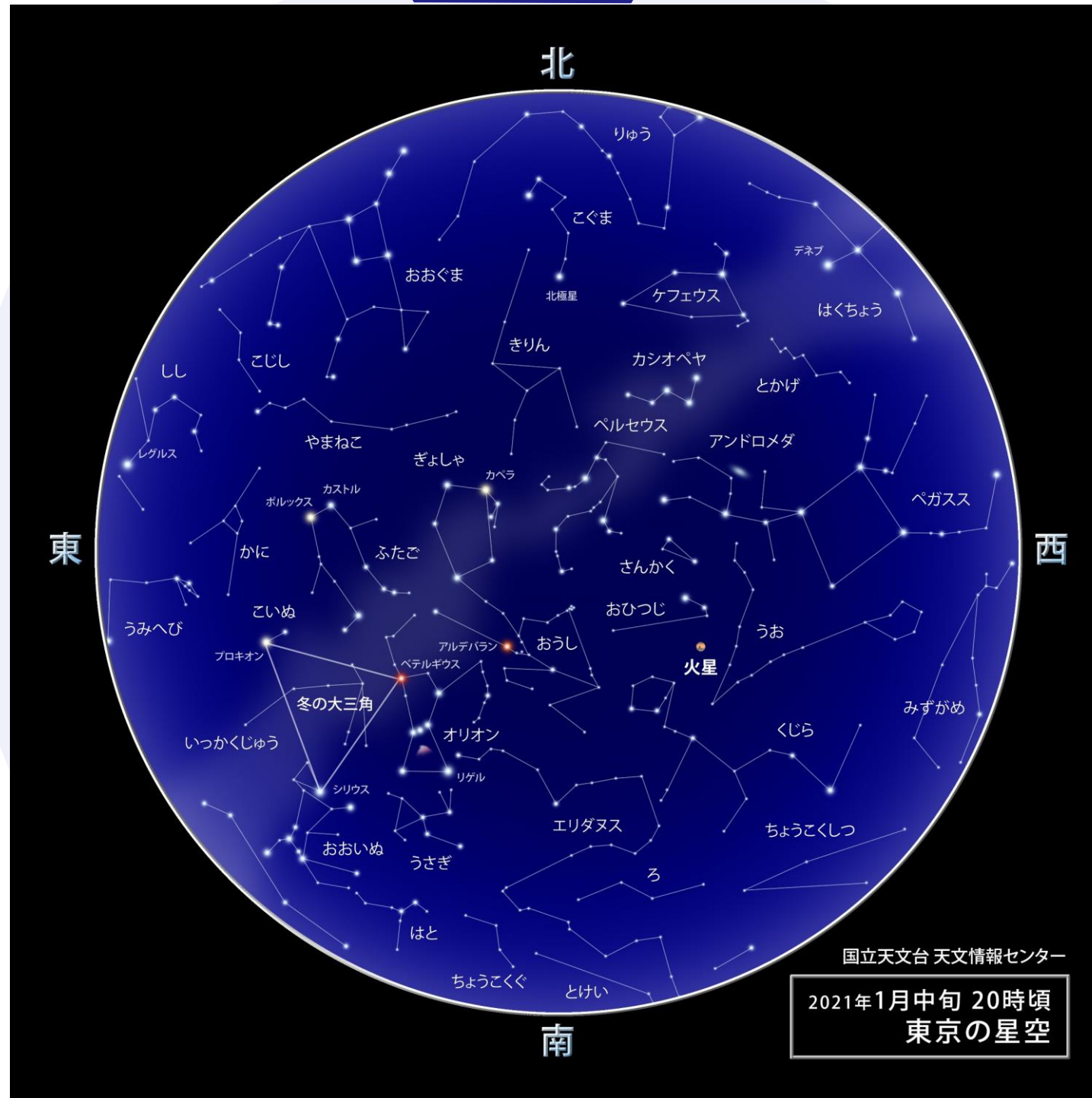
天の川の近くには星雲や星団がたくさんあります。

- * オリオン大星雲 (オリオン座)
- * バラ星雲 (いっかくじゅう座)
- * M41:散開星団 (シリウスの南)
- * M35:散開星団 (ふたご座の足元)
- * 馬頭星雲 (オリオン座)
- * M78 (オリオン座)
- * ウルトランの故郷 など



提供：国立天文台

今月の星空



国立天文台 天文情報センター

2021年1月中旬 20時頃 東京の星空

季節の小話



お誕生日の星座

* やぎ座 (12月22日～1月19日頃) 夏の冬の大三角からたどると見つかる、逆三角形の形をした星座です。ギリシア神話の牧神パーンのお話が由来で、尾が魚という不思議な姿をしています。 * みずがめ座 (1月20日～2月18日頃) 秋の四辺形の地平線側に見える「三ツ矢マーク」が目印の秋の星座です。水瓶を抱える青年の姿で描かれています。

二十四節気

* 小寒(5日)…「寒の入り」と呼ばれ、暦の上では本格的に寒さが厳しくなり始める頃、とされています。 * 大寒(20日)…小寒に続いて、1年のうちで寒さが最も厳しくなるころ、とされています。小寒から立春の前日である節分までを、「寒」や「寒中」、「寒の内」と呼びます。